No. 1136

障害を克服して

― 障害者技能競技大会 ―

さまざまな障害をのりこえて身につけた技能を競いあう全国障害者技能競技大会が千葉市で開かれた。この競技大会は、障害者の労働に対する世間の偏見をとりのぞき障害者に技能労働者としての自信と誇りをつちかい障害者雇用促進を願ってスタート、今年で第4回を迎えた。
全国で172万人といわれる障害者。しかし働く場をもっている人は79万人にすぎない。未就労者は90万人にのぼり多くの人が就労を希望しながらその場を見い出しえない。まだまだ企業の門戸が狭いのが実情だ。
ここに集い日頃の技能を競いあう170人。偏見と闘い障害を克服し、技能労働者として、今を生きる彼等。彼等は、涙をのんで就労できないでいる仲間と職場で、共に生きれることを願っている。

悲願２６年、広島初優勝

― プロ野球セ・リーグ ―

激しい首位争いをくりひろげた1975年度セ・リーグペナントレース。優勝まであと1勝と迫った広島カープは、10月15日後楽園球場で5万人の観衆が見守る中、今季不振で最下位が確定した巨人と対戦しました。広島市民の希望をになって市民球団として誕生以来26年、悲願の初優勝を目前にはるばる広島から赤ヘル親衛隊が大挙して応援にかけつけました。
試合は、五回表広島の攻撃、二死ながらランナーを二塁において、大下が巨人の先発新浦から、レフトフェンスにダイレクトで当る二塁打を放ち、まず1点を先取しました。そして9回表、一死二塁一塁のチャンスにホプキンスは、かわったピッチャー高橋一からライトスタンドへ大きなスリーラン・ホームラン、4対0と試合を決定づけました。守っては外木場、金城のリレーで巨人を完封、ついに球団結成26年目にして悲願の初優勝を成し遂げました。
万年最下位、セ・リーグのお荷物と言われた広島カープの優勝は、一年生古葉監督の巧みな選手操縦法、好さいはいはあったものの、球団の苦しい財政を長い間ウラからささえてきた多くのファンの励ましがあったことを忘れられません。